

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第1講 「研究」とは何か

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 『講義概要』記載情報 +

到達目標: 知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。

授業内容・目的・方法: 「研究」とは、答えるに値する問いを見つけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くプロセスです。この授業では、各自の問題関心にしたがって、問いを設定し、それについて調べて答えを出すプロセスを実際に体験することにより、研究の方法を身につけることをめざします。

教科書: 佐藤望ほか (2012) 『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』(第2版) 慶應義塾大学出版会。
(そのほか、授業での課題・宿題をとおして、各自で既存の研究成果を探して読むことになります)

成績評価方法: 授業中の課題と宿題(50%)、学期末に提出するレポートと口頭試問(50% : 主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか)

備考: 授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります(受講者の都合にあわせて日時を設定)。

2 この授業の目標

- 知的生産の技術
- 卒業論文を書くまでのプロセス
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

3 授業予定

- (1) 「研究」とは何か [10/2]
- (2) 卒業論文・修士論文について発表 [10/9, 16]
- (3) 図書館見学実習 [10/23]
- (4) 研究テーマについて面談 [10月末-11月初頭]
- (5) 本を読む (1): 速読 [11/6]
- (6) 書店実習 [11/13]
- (7) 本を読む (2): 批判と議論 [11/20]
- (8) 本を読む (3): 精読 [11/27]
- (9) プロジェクトとしての研究 [12/4]
- (10) アイディアの創出 [12/11]
- (11) アイディアの交換 [12/18]
- (12) 期末レポートについて面談 [12月末]
- (13) 発表会 [1/8, 15]
- (14) 口頭試問 [1月下旬]

受講者数によって、授業の進行が大幅に変わることがあります

4 注意事項

- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)
- 授業資料用の宿題については、早めに来て、研究室でコピーしてください
- 教員からの連絡は、授業中の指示や教務係前の掲示板のほか、個人ブログ <http://b.tsigeto.info/school> (RSS フィード利用可) に出る場合があります
- オフィス・アワーは定めていません。教員への相談は、適当な時間に予約をとってください

5 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況
- 週間スケジュール

6 レポートのフォーマット

- 問い
 - その背後にある大きな問い
 - 問いの学問的背景
 - 問いの社会的意義
- 答え
 - 必要な予備知識と前提
 - 答えの根拠
 - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

7 今日の課題

卒業論文または修士論文から自分の興味に合ったものを一つ選ぶ

- 配布した一覧表を参考にすること
- 日本語教育学研究室の卒業論文・修士論文は貸出禁止 (閲覧・コピーは可)

8 宿題

自分の選択した卒業論文 / 修士論文 (日本語教育学または自分の所属専修のもの) について、内容をまとめてくる

- 自分の関心について
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

発表は2回にわたって行う予定であるが、資料は全員作ってこよう。

論文を読むにあたっては、教科書 pp. 84-90 を参考にすること。

年 月 日

現代日本論基礎講読 (田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな):

学年:

学籍番号:

所属 (文学部日本語教育以外の場合):

興味のあること (非学術的な話題も可):

日頃使っている情報記録やスケジュール管理の方法:

ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況:

週間スケジュール (ダメなところに ×):

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

現代日本論基礎講読「研究法入門」

卒業論文・修士論文について発表

田中重人 (東北大学文学部准教授)

名札作成 → 毎回 (互いに覚えるまで) 持ってくる

1 課題

各自の選択した卒業論文／修士論文 (日本語教育学または自分の所属専修のもの) について、5分以内で内容を説明。その後自由に討論。

説明のポイントは次のとおり：

- 自分の関心について (兼自己紹介)
- なぜその論文に興味をもったか
- 論文の「問い」はなにか、それにどのような「答え」を出しているか、その根拠は何か
- 疑問や批判など
- 内容を発展させる方向性

2 「議論」のふたつのモード

- 結論を出すための議論
- アイディアを出すための議論

今日は後者のモードで

現代日本論基礎講読「研究法入門」

卒業論文・修士論文について発表 (2)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 論文のまとめかたについて

「問い」と「答え」はできるかぎり簡潔に

- 論文のどこからとるか?
- 複数ある場合も

「問い」を理解するのに必要な予備知識と、「答え」を正当化するための根拠は、すべて記述すると膨大になる

- その分野では普通の知識とそうでないもの
- 発表の際は、重要性に応じてとりあげる
- 調査や実験を行った論文の場合、対象者や方法について簡単に説明すること

批判と発展の可能性について

- 方法・技術についての批判
- 論理に基づいた批判
- 他の研究との比較
- 対象の拡大
- 別の問いへの発展

論文の書誌情報をきちんと書くこと。

2 日本語教育学専修の卒業論文について補足

2.1 テーマ

過去の卒業論文の研究テーマは様々。日本語の教育に関するものは意外にすくない。多いのは日本語、日本語学習環境 (ボランティアや年少者の問題を含む)、ひろく日本社会に関するもの (ファッションから家族問題まで)。

2.2 方法論

質問紙調査、インタビュー、メディア分析 (日本語教科書を含む) が多い。そのほかに2次データ分析 (社会調査データやコーパスの2次利用)、実験、参与観察、理論研究が少数。

2.3 卒論執筆のスケジュール

例年の卒業論文関連行事は次のような内容 (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/gakubu/sotsuron.html>)

4-5月: 構想発表会

6月: 中間発表会 (第1回)

7月: 進捗状況の報告会 (4年生と教員の個別面談; 年によって開催)

10-11月: 題目提出、中間発表会 (第2回)

11月: ドラフト (草稿) 提出

1月初旬: 卒業論文提出

1月末-2月: 論文発表会、口頭試問

これ以外に、月1回の「卒論ゼミ」(4年生と教員)を行っているが、今後続けるかは不明

3 本のみつけかた

現在の学問の分野は「○○学」「○○論」といった専門分野に非常に細かくわかれている。自分の興味と学問の体系を結びつけて、どの研究分野でどのような研究がおこなわれているかを把握していくとよい。

本を探すにあたっては、その研究分野の基礎知識から身につけていくこともできるし、自分の興味のある具体的な問題に直接取り組むこともできる。

研究に関する本は、研究者向けに書かれたものから、一般の人を想定読者層とするものまで、さまざまである。最初のうちは、研究者向けの、いわゆる「学術書」よりは、基礎的なことを幅広く扱った入門書・教科書・新書などを読むのがよい。

避けたほうがよいもの: 論文集、資料集、事典、講演録

4 今後の予定

4.1 図書館見学

来週の授業は図書館見学をおこないます。

- 10:30 に図書館入口に直接集合
- 学生証 (図書館入館証) をもってくる

授業内容はおおそつぎのような予定です (図書館と相談中。変更の可能性あり)

- (1) 図書館の利用についての説明
- (2) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (3) 経済統計コーナーの官庁統計等の配置を理解する
- (4) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ
- (5) 11/6 授業の時に、選んだ図書とその内容のまとめを持ってくる

書庫利用ガイダンスを兼ねる内容とする予定なので、次の日から、書庫への入庫ができるようになります。

4.2 その後の予定

11/6 は観察室工事のため、別の教室でおこないます。なお、石黒先生の集中講義「日本語学習者のための文章表現・理解教育法」を受講する人は、そちらを優先してください。

現代日本論基礎講読「研究法入門」

図書館見学実習

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 図書館書庫の使いかた

1 図書館見学

- 10:30 に図書館入口に直接集合
- 学生証（図書館入館証）をもってくること

見学内容と目的：

- (1) 2号館の経済統計コーナーの官庁統計等の配置を理解する
- (2) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (3) 書庫の使いかたについて講義と見学
- (4) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ
- (5) 図書貸出
- (6) 解散

[課題] 自分の興味のある本を1冊以上探す。探した本について、カウンターで借り出しの手続き

- 図書館内の資料所在と配列を把握する
- 書庫内の本の分類はどのようになっているか?
- 分類記号・請求記号の仕組み
- 静かに、節度を守って探索すること

東北大学附属図書館では、学部生が本館書庫を利用するには、「書庫利用ガイダンス」を受ける必要がある。今回の授業はこのガイダンスを兼ねているので、受講することで、書庫に入れるようになる(明日から)。

2 今後の予定

10/30 は大学祭のため休講。

11/6 は、工事のため、教室を133講義室に変更(この日だけ)。なお、並行して集中講義「日本語学習者のための文章表現・理解教育法」(石黒圭先生)が開講(11/2-6)されるので、集中講義を受講する人は、そちらを優先すること。

11/13 は、大学生協文系書籍店の見学実習。集合は、通常通り、授業観察室に10:30。

3 宿題

図書館から自分の興味のある本を1冊以上借出し、書誌情報と内容、自分の研究にとってどういう点で役立ちそうかをまとめて提出(A4用紙1枚、10/30 ㇼ切。提出先は、研究室の田中のレターケースか、電子メール)。

11/6 授業時に、図書現物と、目次部分のコピーを持ってくること。

文献

国立国会図書館 (n.d.) 「国立国会図書館分類表」 <http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/ndl_ndlc.html>

東北大学附属図書館 (2012) 『「レポート力」アップのための情報探索入門』 <<http://www.library.tohoku.ac.jp/literacy/kisochishiki.html>>

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第2講 本を読む (1): 速読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 読書記録と速読の方法

1 本を読むモード

教科書 pp. 83–90

- 速読 (今日やること)
- 精読
- 批判
- 利用

2 書誌情報

- 書誌情報をどこから採るか (奥付の利用)
- シリーズ・叢書など
- 版
- 目次・索引・序文など
- 初出・履歴の情報

3 読書メモと情報の整理

- 読みながらの記録 (付箋・書き込みなど)
- 目次への書き込み
- 速読カード (教科書 p. 104) などへの記録と保存

4 速読の場合に読みとるべきこと

- 部や章の構成と、各章の役割
- キーワード
- 問いと答えのセット
- 根拠の基礎となる理論やデータ

5 次回予定

来週は、書店 (東北大学大学生協文系書籍店) で本を探す実習をおこないます。どんな本を読みたいか、考えておくこと。

当日の流れ:

[10:30] 通常の教室で授業 (書店での本の探しかたについて)

[10:40] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[11:40] 教室に戻り、探した本について情報交換 (書誌情報 (著者・出版年・表題・出版社) のメモを提出)

その次の授業時 (11/20) に、次のものを持ってくること

- 現物入手 (買うか図書館で借りる)
- 目次と奥付のコピー (今回と同様)

現代日本論基礎講読「研究法入門」

書店実習

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 書店実習

東北大学大学生協文系書籍店で本を探す実習

[10:40] 文系書籍店に移動 → 好きな本を各自探す

[11:40] 教室に戻り、探した本について情報交換 (書誌情報 (著者・出版年・表題・出版社) のメモを提出)

まず、店内の全体を回って、どのような配置になっているかを把握すること (おおむね、分野別の本が左側、新書や文庫が右側に配置されており、雑誌のコーナーが真ん中にある)。

自分の興味のある本を適当にさがす。手に取って、立ち読みしてよい。よさそうな本については、奥付を見て書誌情報を控える。

- 内容の見当を短時間でつけるには、どう読めばよいか? → 目次、前書き、あとがき、索引、参考文献の活用

静かに、節度を守って探索すること

2 次回予定

つぎのものを持ってくること

- 自分が興味をもった本の書誌情報のメモ
- できれば現物入手 (買うか図書館で借りる)
- 現物入手できた場合、その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (前と同じ方式: A3などの大きな用紙に、余白をじゅうぶんにとってコピーする) 2部

今日の実習でじゅうぶんに探せなかった場合は、各自で空き時間に探しておくこと。

なお、東北大学附属図書館の所蔵は、つぎのURLで検索できる。

[フルブラウザ用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/>

[モバイル機器用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/iecats/>

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第3講 本を読む (2): 批判と議論

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 本の概要をつかみ、その内容について議論する

1 課題

各自で探してきた本について、次のことを議論する

- 主要なキーワードとその意味
- 章や節がどのような組み立てになっているか
- 自分にとって参考になること（あるいは面白い発見）はどれか。その根拠となるのは何か

2 書誌情報の書きかた

文献の情報 (書誌情報: bibliography) をどう書くかについては、分野ごとに慣習が違う。日本語教育学研究室では、本の書誌情報はつぎのように書く。

著者 (出版年) 『書名』 出版社.

シリーズ名や版表示などをつける必要がある場合は、書名の閉じかっこ』のあとに () でくくって示す。

3 キーワードを抜き出す

教科書 p. 86

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

章ごとに3つ以上抜き出してみる

4 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 →キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる →セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

5 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

6 次回の予定

次回は、今日とおなじ本について、一部に注目しての「精読」をおこないます。次のものを用意してください。その本の実物も持ってくること。

- 本の中から、自分が注目したい部分 4-9 段落程度をえらぶ
- A3用紙の中央にうまく配置してコピーする。必要があれば図や表なども一緒に。上下左右に大きく余白をとること

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第4講 本を読む (3): 精読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 文章を細かいところまでちゃんと読む

1 今日の課題

1.1 事前準備

自分の興味ある本から4-9段落程度をコピーする。A3用紙の中央にうまく配置する。必要があれば図や表なども一緒にコピーしておく。上下左右に大きく余白をとること。

1.2 授業中課題

各段落の「キーセンテンス」を蛍光ペンなどでマーク。

わからない語・句・節・文などを○や下線でマーク。必要に応じて、これらの○や下線に番号や記号をつける。これらについての疑問点を余白に書く。「わからない」とは、単独で意味不明なもののほか、「語Aと語Bの違いがわからない」「下線Xと下線Yは矛盾してないか?」「キーセンテンスと関係なさそう」といったことを含む。

疑問点をどのようにすれば解決できるかを考える（本のほかの部分を見る、索引を引く、ほかの文献を読む、辞書で調べる、人に聞く、など）。

実際に調べたり考えたりして、わかったことを余白に書き入れていく。

ある程度できたら、他の人に見せて意見をもらう。たとえば、疑問点が正しく解消できているか、解消できていない疑問点についての意見、疑問点としてあがっていない部分についての質問、など。

1.3 宿題

- (1) もらった意見と、授業後に調べたことを総合して、余白にすべて書く。結局わからなかったことについても、なにがわからないかと、どう調べればわかる可能性があるかを書く。
- (2) 各段落が何をいおうとしているかを、別の用紙にまとめる。短文でも、箇条書きでも、図解でもよい。1年後に自分自身が読み直して、記憶を呼び戻せるように書くこと。用紙いちばん上にその本の書誌情報を書く。

教科書 p. 86, 103-105 を参考にする。

2 情報の蓄積と整理の方法

- 本を読む習慣をつけること
- 雑誌と雑誌論文について
- その他の情報源
- 文献を読むときのメモ → 下線を引く、付箋を貼る、目次にメモ、コピーや写真を撮るなど
- 情報の整理 → ノートやカードの蓄積、デジタル技術の活用 (日経 BP 社, pp. 24-29)
- 書誌情報と現物の保管 → 文献整理ソフトの利用、本棚やコピー収納場所の確保
- 文献探索の方法 → 日本語教育学のページ <<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>> や図書館の冊子『情報探索の基礎知識』 <<http://www.library.tohoku.ac.jp/literacy/kisochishiki.html>> を参照

3 来週の予定

来週は、各自の考えている内容についての「マインドマップ」をつくります。色ペンを (できるだけ多種) もってこること。また、レポートに何が書きたいか、現在のところ持っている情報は何かをまとめておくこと。

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第5講 アイディアの創出

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアを出してまとめていく方法

1 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイディアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい (月刊ビジネスアスキー編集部, 2010, pp. 12-17)。

2 KJ法

教科書 pp. 110-116

- マインドマップとはちがい、こまかいところからつくりはじめる
- 適切な大きさの「ラベル」をつくれるかどうかポイント

3 類似の手法

- 問いと答えのリスト
- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ
- マインドマップと同様のことは、PC上でもできる

4 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくること。

5 文献

- 月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ”かき方” 超入門』 アスキー・メディアワークス.

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第6講 プロジェクトとしての研究

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアについての意見交換; 研究を完成させるのに必要なこと

1 「精読」課題について

- 書誌情報をちゃんと書くこと
- 「キー・センテンス」の選びかた
- 用語の意味、類義語、対義語など

2 意見の交換

【課題1】各自が作ってきたマインドマップを見ながら、グループで意見交換する

- 5分程度で説明、そのあと意見交換
- 思いついたことはとりあえず口に出してみる
- 今の段階では、最終的なレポートの形や、厳密な理論展開や根拠については保留しておいてよい

3 文献・資料の探しかた

- 書店／図書館
- CiNii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>
- CiNii Article: <http://ci.nii.ac.jp>
- Google Scholar: <http://scholar.google.co.jp>
- そのほか、各専門領域のデータベースやリンク集など:
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>
- 芋づる式
- 人に聞く

4 論文講読と口頭発表

論文と口頭発表に触れておくことは、学術的な表現方法を習得するという観点からも重要である。必ずしも自分の研究対象でなくとも、様々な分野の論文を積極的に読み、論文の構造や文体や語彙に慣れておくこと。口頭発表については、大学内外での学会・研究会・ワークショップなどに参加してみるとよい：

- 東北大学のニュース: <http://www.tohoku.ac.jp>
- 文学部のニュース: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>
- 田中によるブックマーク: <http://b.hatena.ne.jp/remcat/東北大学>
- 文学部関連フィード集: <http://daichkr.hatelabo.jp/antenna/960679194077064760>
- はぎのすけ (図書館 Twitter アカウント): http://twitter.com/hagi_no_suke

5 プロジェクトとしての研究

Project: 有期性と独自性という2つの特徴を持つ業務。「有期性」とは、明確な始まりと明確な終わりがあること、「独自性」とは、これまでにない新しい何かを創出する新規性があること。(花岡編, 2012, pp. 1-2)

通常は、企業の中でチームを組んでおこなわれる一連の仕事を指すことが多い。この場合は、人員や予算の制約がプロジェクトの管理の上で重要となる。

学生がひとりでおこなう研究の場合は、このような制約はあまり重要ではない。それよりも、自分の使える時間・体力・知識を正確に把握して、余裕をもって計画を立てる(進行状況を見て適宜修正する)ことが必要になる。

【課題2】この授業の結果報告(1/8, 15)に向けてやらなければならないこととその時期的な見通しについて整理せよ。ガント・チャート(Gantt chart)の形で書くことを推奨するが、ほかの方法でもよい。

6 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、配布資料(大島ほか, 2005, p. 37)を参考にして、「問いと答え」の表を作成。次回授業時に3部持ってくる(うち1部を授業後に提出)。

7 今後の予定

- 12/18は通常授業
- 12/25は休講: その代わりに個人面談(レポートについて): 12/14-16, 18, 21, 22, 24
- レポート内容について発表: 1/8, 15 授業時
- 口頭試問(1/18以降)

文献

日経BP社(2010)『実践ノート&書類術』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ)日経BP社。

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂(2005)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

花岡伸也(編)(2012)『プロジェクトマネジメント入門』(シリーズ新しい工学2)朝倉書店。

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第7講 議論を組み立てる

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

2 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法
- 測定の妥当性・信頼性再現性
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか

- 直観と内省

推論

- 確率と統計的推測
- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

3 発表会

1/8,15 の授業では、各自の発表をおこなう

- 発表内容についての資料を人数分用意する (初回資料にしたがって簡潔にまとめる)
- グループ内で「紹介者」を決めておく
- 紹介者から研究内容を紹介 (2分)、そのあと自由に質疑 (8分)
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。グループで集まるのが望ましいが、できない場合はメール連絡等でもよい

4 口頭試問

授業最終週に、グループで口頭試問をおこなう。1人15分程度。時間と場所はグループごとに決める。

発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は改訂後の資料を持ってくること。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるので、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

口頭試問の際に提出された資料をレポート確定版として採点。

文献

道田泰司・宮元博章・秋月りす (1999) 『クリティカル進化論』 北大路書房。